

## Q3 解説

① 君 我が為に呼び入れよ。吾之を兄事するを得ん。

↓ポイントは豎点。出典は『史記』の「鴻門の会」で、意味は「君は、私のために（項伯）を呼び入れて欲しい。私（＝劉邦）はこれ（＝項伯）を兄としてお仕えしたいと思う。」

↓シチュエーションとしては、劉邦が項羽に目を付けられていた際に、項羽の兄の項伯が劉邦のもとを訪ねてきて、劉邦は項伯を通じて項羽に取りなしてもらおうとしている。

② 当に三軍を奨率して、北のかた中原を定むべし。

↓全体的にややこしく注意が必要。出典は諸葛亮「出師の表」で、意味は「（軍隊を）励まして率い、北（へ軍を進め）中原を平定すべきです。」

↓シチュエーションとしては、三国時代、蜀の名臣である諸葛亮が、君主の劉禅へ宿敵である魏を倒すことを進めている場面。

③ 古より、帝王之を艱難に得て之を安逸に失わざるは莫し。

↓これがしっかりと書き下せれば、返り点は問題無い。出典は『貞観政要（じょうがんせいよう）』で、意味は「昔から、帝王がこれ（＝天下）を苦しみながら得て、これ（＝天下）を平和な時代に皆失っている。」という意味。

↓シチュエーションとしては、太宗という君主が、「国を新たに建てることと、国を守って運営していくことは、どちらが難しいか」という質問を投げかけ、臣下がそれに答えたもの。この言葉の後、「守成難し。」と続くので、臣下は国を守って運営していくことのほうが難しいと述べていることが分かる。

↓一般的には、建国のほうが難しく考えがちだが、臣下の意見が逆である点が面白い。実際、王朝でも会社でも、初代は素晴らしい能力を持っていたが、2代目・3代目は富や権力に溺れ、危機感が足りず努力を怠り、衰退させてしまうことは多い。